

SORA

web magazine 2019.jul. vol.111

Travel

メキシコ・カボサンルーカス沖で、 ザトウクジラなどの人気種に会いに行く

メキシコのカボサンルーカス沖に広がる太平洋とコルテス海に、ザトウクジラが回遊してくる。シーズンは、毎年11月末から3月末まで。北極、アラスカから出産、子育てのためにやってくる。その数は、3000頭とも言われる。これまで、カボサンルーカスでは、ホエールウォッチングがとても有名だったが、現地ダイビングサービスのDEEP BLUEが、少人数制のホエールスイムを開始した。ザトウクジラのピークは1月末から2月で、今回、1月末に視察取材を行った。

Photo & Text: Yasuaki Hagii

MAP
CLICK!

Mexico Cabo San Lucas

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



驚きの景色が待っていたカボの初日

朝の8時半に、ダイビングセンター「Deep Blue」に集合。オーナーのオスカルとさちこさんに迎えてもらい、雑談をしながら器材の準備。今回は、ダイビングではなくスノーケリングなので、いつもよりは簡単に済ませる。それをボートキャプテンが船まで運んでくれる。「Deep Blue」は、たくさんのボートが係留されているメインのハーバーに面した建物の1階にあるので、数分移動しただけで、ボートに乗り込むことができる。私は水中カメラを持ち、またボートコートを着込んで向かった。取材時期の水温は23℃で、5mmのワンピースのウェットスーツがあれば十分。ただ、風がある日は海から上がると身体が冷えるので、ボートコートが必要となる。カボの港からボートを出発させる。ボートで10分ほどのランズエンド周辺はホエールウォッチングのボートが多いので、ボートがあまり来ない太平洋側の少し沖側に向かう。オスカルとボートキャプテンが、目を凝らしながら海を見つめる。3頭ほどのザトウクジラをほとんど発見。何度か息継ぎをするタイミングを見つけては、ゆっくりボートで接近し、観察し、私たちに慣れてくれるのを待つ。「あと2回ほど息継ぎに上がってきたら、今度は海の中に入りましょう」とオスカルが話してくれる。まだ少し時間があるなど、少しゆっくりしていると、近くにいたフィッシングボートがマカジキを釣り上げていた。「鍵井さん、入？」とオスカル。オスカルに、釣ったマカジキと記念撮影している釣り人とボートマンに「ゆっくりリリースをして!」とってもらい、私は入水した。ボートの隣でリリースされたマカジキが、ゆっくりと泳ぎだす。私は何枚か写真を撮影した。あまりにゆっくりとした動きなので、「大丈夫かな?」と変に自重気味となって眺めていると、マカジキはゆっくりと深場に泳ぎ降りて行った。「ちょっぴりやらせただけ、撮れた?」とオスカルが笑う。私も取り敢えず、水中で何かを撮影できた……と少し安堵?した(笑)。

Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



予想もしていなかった出会い

ゆっくりとボートを走らせ、クジラの姿を探す。水面に3頭ほどのアシカが浮いている。「鍵井さん行く?」と聞かれ、「もちろん!」。ランズエンドなどに生息するアシカ達が餌を求めて沖合に来ているとのこと。La Pazのロススロテスのように手を甘噛みしたりして遊ぶことはできないけど、一定の距離を保ちつつ、時折、猛スピードで遊ぼう?と接近するアシカと水中で少し時間を過ごした。

そして、今度はイルカの群れを発見。「鍵井さん行く?」と聞かれ、「もちろん!」。イルカの方向を見定めてボートを回し、ゆっくり入水。オスカルOSCARの指示で水面を移動する。イルカの鳴き声が大きく聞こえてくると、遠くからイルカの群れが現れた。遠いけど撮影していると、大きな影が見えた。なんとコククジラだった。思いがけない出会いにただ驚き、うまく接近できないことを悔やむ。彼らはすぐに泳ぎ去ってしまったので、一旦ボートに上がった。また同じイルカの群れを見つけ、再び入水。イルカの群れの奥にまたコククジラが見えた。素潜りで接近を試みる。そのタイミングで、イルカたちはさっとスピードを上げて前に移動したけれど、コククジラは私の存在に気が付いたのか?一度背を向け、少しの間だけ一緒に泳いでくれた。最初はイルカと一緒に泳いだりしたかったので、ファインダーの中で映る単体のコククジラを確認しながら、「少し寂しいな……」と思いながらも夢中でシャッターを切った。久しぶりに水中で出会ったクジラ。距離もあったし、撮影したというよりは、ただただシャッターを切っただけの出会いだったが、少しの恐怖心が芽生えつつも、私自身やはり興味深かった。そのあとザトウクジラを探したが、姿を見かけることはなく、コククジラがその日のハイライトだったと納得しながら、午後2時頃に帰港した。午後は風が強くなったので、行こうと思えば行けたけど、なんとなく船を出さない方向となった。

チャンスを待つ時間



2日目。朝、8時半にダイビングショップに向かう。昨日と同じようにスノーケリングなので、準備は少なく船に向かう。午前中はオスカルが空港に行く予定などがあり、現地で水中カメラマンとしても活躍するアメリカ人のデイビッドと海に出る。同じように太平洋側に船を進める。いくつものホエールウォッチングポイントが見える。昨日と同じように、彼らとは距離を置いての入水となるので、彼らがいない海域へ。午前中は昨日と同じように風もなく、べた凧。太陽の日も差し、船上はTシャツでいられるほど暖かい。2グループほどザトウクジラのグループと出会い、入水を試みたが、泳ぎ続ける彼らを水中で眺めるのみで、うまく撮影はできず……。当たり前だけど、良いクジラに出会うことが前提だし、忍耐も必要。そんなことをわかってるから、デイビッドと私は、そんなにクジラの撮影が思うようにうまくいかずとも、このカボの海のこと、クジラのことなどを笑顔で話しながら船上で過ごした。もちろん撮影したい気持ちはあるけど、なんだかよくわからない余裕のある時間や心持ちも必要だと思った。午後1時に一度帰港して、デイビッドは下船し、オスカルとさちこさんが乗船してくれた。同じように、いくつものホエールウォッチングポイントが見えるが（この時期は大人気）、またそこから距離を置くように少し沖へ向かう。同じようにみんなで和やかな会話をしながら、あまりの日差しの暖かさにさちこさんと私は、「昼寝しちゃいそう」などと言いながら船で過ごす。そうしている間も、オスカルとキャプテンの視線は海の向こう。「あそこにクジラがいるよね」と二人は話しているけど、正直、私には見えない（さちこさんも同じらしい……）。ボートを走らせる。海面に時々浮かび上がるクジラの背から想像して、数頭のクジラがそれほど急がずに泳いでいる。突然、2頭のクジラがブリーチングなどを始めた。大迫力。それは何度か続き、このクジラたちが落ち着いたら、入水しようと準備を始めていたら、それを遠くで見ていたホエールウォッチングボートがすぐにやってくる。「そりゃそうだ!」と思いながら、入水の準備をしていると、ボートキャプテンが「船の下にいる!」と教えてくれたので、すぐに準備し、入水した。



幸せな出会いに感謝

眼下には4頭のクジラがいる。大人の4頭。ゆっくりと進んで行く。少し追う感じとなったが、全然ついていけず。一度船が上がって、彼が落ち着くのを待って、また入水。あまりストレスを与えないように、それを何度か繰り返していると、彼は少し興味を持ってくれたのか、なんとなくボートの周辺にいるようになった。水中で2頭ずつに分かれ、少し接近してくれるけど、大接近とまではいかない……。なかなか撮影するには難しい距離。見失い、船に上がり少し状況を確認していると、船にクジラがやってくる。一度やってきたと思って入水したら、目の前にいて、シャッターチャンス逃してしまった。スノーケルから「うお!」という叫び声を聞いて、船上のみんなは笑っていたらしい……。(笑)。作戦変更で、私は船のラダーに捕まって水面に浮いていた。すると海の下からゆっくりと浮上するクジラの影、でも私の存在に気がつくともうと離れていく……。作戦は成功のような、失敗のような……。(笑)。それにしても、今回は2日目にして、こんな幸せな出会いを可能にしてくれた。ただ撮影したというよりは、クジラたちと互いに意識しながら接近を繰り返したという感じの午後となった。カボの海はやっぱりすごいな。



Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



期待と想像と興奮と

3日目。同じように、朝8時半に集合。「今日はマッコウクジラだ!」とオスカルと笑って港に向かう。ボートに乗り込み話していると、どうやら3日ほど前にマッコウクジラの大きな群れが、カボから近い海域に集団で休憩?していたとのこと。「早く言って!! それならフィッシュアイレンズを用意するのに!」と笑顔で答えたが、もうどうしようもないので、もしマッコウクジラの群れに出会ったら、今の17-40mmのレンズで勝負しないとイケない……などと勝手に構図を想像していた。午前、午後とボートを出し、何度か水中もトライしたが、その日は上手くザトウクジラを撮影できず……。水中で見えるのだけど、気が付かれて進行方向を変えられたり、また違った海域を選択し、透明度が思いの外悪かったのも一因だった。残念だけど、そんな日もあるなと意気消沈するとのだが、さすがカボ。ポート上はブリーチング祭りで、いろんな場所に、何頭ものザトウクジラがブリーチングやテールフラッピングなどを行っている。そんな行為を撮影し、そこに多くの時間を費やせたのも水中撮影のタイミングが制限されたからかもしれない。一度始まったブリーチングなどは、10回ほど繰り返される時もあった。まるでゲームのような感覚で、この大自然の美しい行動を楽しんだ。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





朝から全力だけど……(笑)

4日目。撮影も最終日ということで、朝6時に集合して、夜明け前に船が出る。ちょうどランズエンドを回った頃に日の出となり、コントラストの強い青とオレンジ色の世界から、淡いブルーとピンクの色彩に空が変わる。黙々と船は北上する。途中、オスカルに「もしかして、マッコウジラ狙い?」と聞くと、「そう、でもいるかどうかわからないけどね」と答える。そのままなんとなく、風のない真っ平らな海を走る。ザトウジラの潮をいくつも見るが、接近してもうまく寄れない。「今日はおかしいね、オルカでも来ているのかな?」とオスカル。マッコウジラにオルカか……と思いながら、船は進み、沖に向かい、そして南下し始めた。海は静かで突然何か起こりそうだけど、そうでもないような気もする。海での出会いは突然で、思いがけなくやってくるが多々ある。終わってみればそうだよな、と納得することもあるが、とにかく海というフィールドに出ていると何も始まらない。午前中、何事もなく終わり、午後は、数回ザトウジラに水中で出会うチャンスに恵まれたが、うまく撮影はできなかった。4日間の滞在中、毎日、そううまくいくわけではなかった。

Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



すべての撮影を終えてみて……

すべての撮影を終えてみて思った感想は、ザトウクジラと水中で出会うことはやはり難しい。というか運も必要だと思った。冬の時期、このカボの海には、約3,000頭のザトウクジラがやってくる。長年、ホエールウォッチングは有名で、たくさんのボートは出ているけど、ホエールスイムはまだ始まったばかり。ホエールウォッチングボートのいる場所ではもちろん入水できないなど制約もあるけど、風がない日の多い穏やかな期間に、暖かなボートの上で過ごしながら、一緒にザトウクジラと泳ぐチャンスを狙うことになる。ザトウクジラだけでなく、他にもイルカやアシカ、運が良ければ、シャチやマッコウクジラ、シロナガスクジラに遭遇できるチャンスもある。本当に素敵な場所だと思う。またクジラのブリーチングなどは、1日海に出ていると、チャンスは必ずやってくるというのも吉報だと思う。

現地のダイビングサービスのDEEPBLUEも、少人数でこのホエールスイムを始めた。今回、1月の後半に視察を兼ねて、ホエールスイムを行った。2日目に素晴らしい出会いがあり、無事にザトウクジラの姿をファインダーに収めることができた。しかしこの4日間を振り返って気が付いたのが、ブリーチングなどを始め、水面から見える彼らの姿に子供の姿がいなかったこと。本来なら、1月下旬には、母クジラと子クジラと一緒に泳ぐ姿が見られるはずだが、今年はまだのようだった。もし、母クジラと子クジラが多く泳いでいる状態だったら、また今回も違ったスイムの報告ができたのかな?と思った。まだ4日間しか見ていないので、このカボのホエールスイムがどのようになり、また成長していくのか明確なことは言えないが、とても高いポテンシャルを持った海であることは間違いない。また来年もやってきて、ホエールスイムにトライし、楽しみたいと思っている。

Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス

今回、お世話になった ダイビングセンターDEEP BLUE

カボサンルーカスで20年の実績を持つ。メキシコ人でオーナーガイドのオスカルは、日本語が堪能で、日常会話なら何の問題もない。奥さんのさちさんは日本人なので、色々心強い。今回紹介するホエールスィム以外にも、ランズエンドやアクアリウムといった人気のローカルダイブポイントがあり、アシカやウシバナトビエイの群れなどにも会える。またまだまだあまり知られていないモブラの群れは、4月～7月ごろに見られる。ただその頃は水温が、19℃から25℃までと変化があるので、事前に確認したい。



Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



DEEP BLUEとカボの街



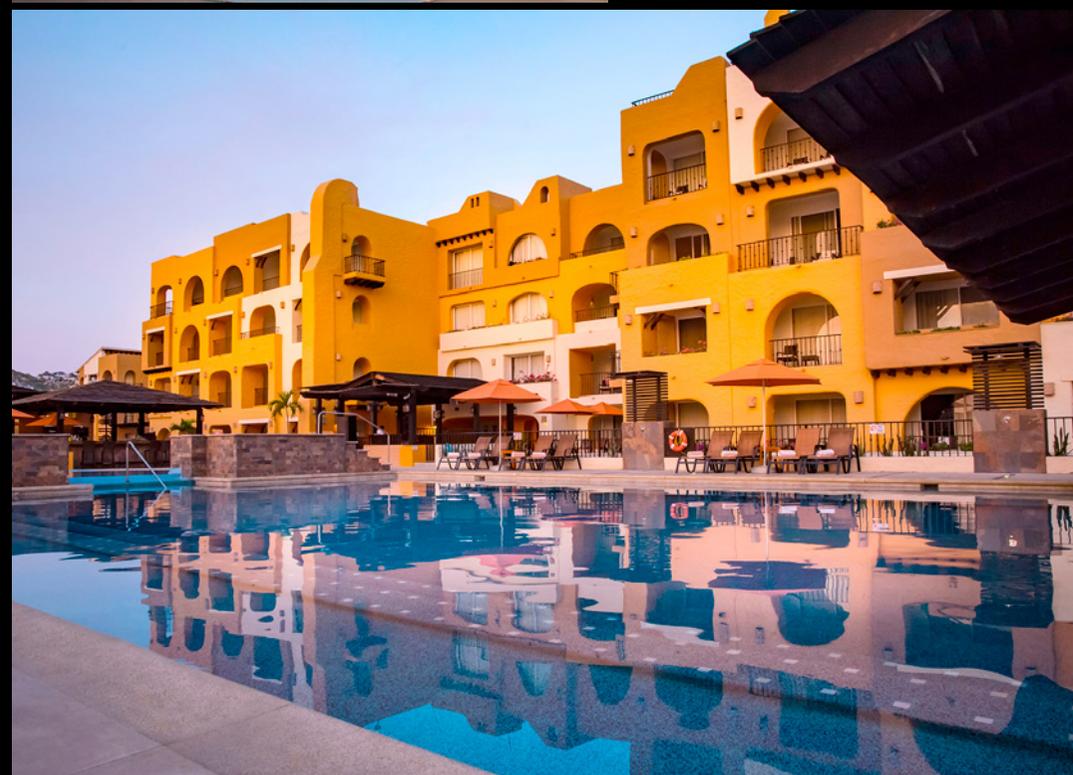
ホエールスィムのスケジュール

ザトウクジラのピークである1月末から2月がオススメ。最少催行人数2名で、最大6名。ダイビング用のポートで行う。コースは2つあり、朝10時スタートで、18時に終わる8時間の1日コースと、お昼の13時にスタートして、17時に終わる半日コースが用意されている。2月の水温は23℃ほどで、3mmのワンピース、または5mmのワンピースがあれば良い。ただ船上は風が吹くことも多いので、ポートコートなどは必要。ウェットスーツのレンタルはあるが、ポートコートのレンタルは数に限りがあるので、自分で準備した方がよい。

メキシカンな雰囲気がある素敵な宿泊施設！



Mexico Travel
Cabo San Lucas
メキシコ・カボサンルーカス



シエスタスイート

街の中にある2スターホテル。メキシカンなホテルで、カラフルな色使いがとても素敵。4階建ての全21室。シングルルームとツインルームのタイプがあり、両タイプとも広く、清潔感がある。シングルルームは、ダイニングとベッドルームに仕切りがあり、ツインルームは広い間取りとなっている。室内には、シャワートイレ、エアコンの他、冷蔵庫、電子レンジ、キッチンなどが完備してある。同じ敷地内には、人気のレストラン、サルバトーレがある。夜は、街中で響く音楽が部屋まで届く。その喧騒も楽しめる方にオススメ。ダイビングセンター DEEP BLUE まで徒歩3分ほど。



テソロ ロスカボス

カボサンルーカスの中心で、マリーナに面し、ロケーションが素晴らしい4つ星ホテル。アースカラーの配色が街にマッチングしている大型のリゾートホテル。全365室。室内は広くモダンな造りになっている。客室は、様々なカテゴリーがあり、好みのタイプを選択できる。ダイビングセンター DEEP BLUE がテソロの建物内にあるので、移動距離はほとんどない。

チキバー

マリーナにあり、ローカルのメキシカンや船を持っている人も集まるお店。フィッシングのゲストも多いので、早朝から夜遅くまでオープンしている。値段もお手頃で、味も抜群。オススメは、エビのバーガー、フィッシュタコストルティーヤスープ、メキシコ人が作っているお寿司などもおいしい。今回は、ランチタイムによく活用した。



Mexico Travel

Cabo San Lucas

メキシコ・カボサンルーカス

DOC

イタリア人が経営する本格的なイタリアンレストラン。ワインバーも兼ねているので、ワインも美味しい。落ち着いた洒落たレストランで、お薦めは、塩釜の魚やホームメイドの Pasta、また手作りベーコンやチーズなども美味しい。イタリア人シェフがメキシコの唐辛子を使って作った DOCパスタは、ハバネロの入った辛い味。オリジナルなので、この店でしか味わうことができない逸品。



美味しいレストランをご紹介します!!



サルバトーレ

イタリア系のアメリカ人が経営する伝統的なアメリカンイタリアンのレストラン。人気のレストランで、予約は必須。夕方6時には、連日ほぼ満席になっている。繊細な料理というよりは、量も多いので、大人数で楽しむ感じ。人気はラザニアで、豚肉のボルケッタ、(シーフードパスタの) プッタネスカなども美味しかった。



他にも和食レストラン・ダイコクや、簡単な軽食やタコスが食べられるスタンドなど、レストランは様々ある。カボの街は、メキシコの中でも安全な街で、物価はアメリカのロサンゼルスと変わらない。可愛いカラフルな品物が並ぶお土産屋さんも多く、覗きたいお店が軒を連ねる。海遊びの後は街歩きも簡単なので、ぜひ、ショッピングを楽しんでほしい。その場合、すべてのお店は USドルで支払うことができる。しかし、ペソで支払うか、またクレジットカードで支払う場合は、ドル払いでなくペソ払いの方が、ドルのレートが間に合わないのでお得。